

ASEAN 大使通信
第 1 回 日本 ASEAN 友好協力 50 周年に向けて

2022 年（令和 4 年）12 月 26 日



ASEAN 事務総長への委任状提出（2022 年 12 月 1 日、ASEAN 事務局提供）

皆さん、初めまして！ASEAN 日本代表部大使の紀谷昌彦と申します。本年 11 月 30 日にジャカルタに着任し、12 月 1 日にリム・ジョクホイ ASEAN 事務総長に林外務大臣からの[委任状を提出](#)して、大使としての仕事を始めました。

これから、ASEAN 代表部のウェブサイト「ASEAN 大使通信」を連載して、ASEAN と日本に関わる最新の動きや、幅広い関係者の活動と貢献をご紹介します。来年は日本 ASEAN 友好協力 50 周年です。読者の皆さんと一緒に、様々な分野で協力の輪を広げて推進することを通じて、ASEAN と日本、地域と世界の平和と安定、繁栄と幸せを実現していければ幸いです。



ASEAN 事務局での着任記者会見（2022 年 12 月 1 日、じゃかるた新聞提供）

●着任記者会見

12 月 1 日、リム事務総長への委任状提出直後に、ASEAN 事務局内で記者会見を行い、着任に際しての抱負を以下のとおり述べさせていただきました。

東南アジア地域での在勤は今回が初めてですが、これまで日本や世界各地で ASEAN 諸国とともに、安全保障・平和構築・経済・エネルギー・開発協力・国際保健など幅広い課題に取り組んできました。このような経験や知見を最大限に生かして、国際社会で重要性を一層高めている ASEAN と日本の関係を更に発展させるために尽力する所存です。

とりわけ 2023 年は日本 ASEAN 友好協力 50 周年を迎える記念すべき年であり、この重要な時期に ASEAN 日本政府代表部で仕事をできることを光栄に思っています。これから 12 月に東京で開催予定の日 ASEAN 特別首脳会議まで、東京や ASEAN 各国で様々な行事が開催される予定です。

日本 ASEAN 友好協力 50 周年キャッチフレーズは「[Golden Friendship, Golden Opportunity](#)（輝ける友情、輝ける機会）」です。Golden Jubilee（50 周年）の節目を最大限に生かして、日本 ASEAN 関係を新たなステージに引き上げ、私たちの友情や機会、そして未来が輝かしいものとなるよう全力を尽くす決意です。



ERIA 大使会議での日本代表冒頭発言（2022 年 12 月 2 日）

●ERIA 大使会議

翌日の 12 月 2 日には、東アジア・ASEAN 経済研究センター（ERIA）大使会議が ASEAN 事務局で開催されました。

[ERIA](#) は、2007 年の東アジアサミットで日本の提案に基づき設立が合意され、翌 2008 年に東アジア 16 カ国の理事の参加を得て設立された、政策提言のための研究を行う国際機関です。毎年、ERIA 幹部と ASEAN 及びパートナー 16 カ国大使の会議を開催しており、今回は 3 年振りの対面開催となりました。私にとっては、早速カウンターパートに会える絶好の機会です。

会議の席上、私はこの重要な会議に間に合うように着任を前倒ししたと最初に述べた上で、ERIA が新設予定の「デジタルイノベーション・持続可能な経済センター」を日本として積極的に支援していきたいと表明しました。更に、来年の日本 ASEAN 友好協力 50 周年に向けて、ERIA や ASEAN 事務局・加盟国やパートナーと是非連携を進めていきたいと伝えました。



ASEAN 防災人道支援調整センター（AHA センター）視察（2022 年 12 月 15 日）

●AHA センター視察

その週末に、初めて市内視察しながら買い物をして生活を立ち上げました。ジャカルタは高層ビルが立ち並ぶ大都会で、豊かさと便利さに驚きました。

翌週からは、ASEAN 事務局や関係機関の幹部、ASEAN 加盟国代表部常駐代表、対話国代表部大使他を表敬訪問して、最近の動きや日本への評価・期待について話を伺うとともに、各種のレセプションに出席して交友を広げています。

12 月 14 日には [ASEAN 防災人道支援調整センター（AHA センター）](#) を訪問して、リー所長はじめ幹部から説明を受け、オペレーションセンターも視察しました。私自身、南スーダン大使や外務省国際協力局参事官として人道支援に携わっていたので、ASEAN 域内の災害対応・能力構築を調整・推進する AHA センターの意欲的な取組を初めて現場で見聞きし、大変感銘を受けました。

日本は防災先進国として、2011 年の AHA センターの設立当初から、緊急物資の備蓄、ASEAN 各国職員への研修事業など、[日・ASEAN 統合基金（JAIF）](#) も活用して支援しており、オペレーションセンターの施設も日本が支援したものです。AHA センターの幹部が ASEAN 加盟国とともに、日本の支援を最大限に活用するのみならず、更なる改善を目指していることを知って嬉しく思いました。



第 20 回東アジアフォーラム開会式での日本代表挨拶（2022 年 12 月 19 日）

●東アジアフォーラム

着任後 2 週間を過ぎて、早速出張が入りました。12 月 19 日～20 日にベトナム南部沿岸のニャチャンで開催される東アジアフォーラムに出席するためです。

東アジアフォーラムは、ASEAN+3 の枠組みの下で、2003 年から毎年、産官学の代表者が集まって東アジア地域協力について議論し、その成果を ASEAN+3 首脳会議に提出するものです。これまで日中韓と ASEAN 諸国の 1 か国で交互に開催しており、本年はベトナム主催で 3 年振りの対面開催となりました。

今回のテーマは、ASEAN+3 協力 25 周年を機に、将来の ASEAN+3 協力の方向性を考えるというものです。私は冒頭挨拶で、先般採択された ASEAN+3 協力作業計画（2023-2027）に明記された通り、インド太平洋に関する ASEAN アウトルック（AOIP）の原則に基づき 4 つの優先分野で協力を推進することが重要であり、そのために日本は今後とも協力を主導していきたいと表明しました。

三井物産の四方立夫社友、杏林大学の三浦秀之准教授、[東アジア共同体評議会](#)の菊池誉名事務局長（日本国際フォーラム理事）、ERIA の木村福成チーフエコノミストも、各セッションのプレゼン等で貢献いただいたのみならず、今後の ASEAN 知的交流の推進に向けて貴重なご意見を伺うことができました。



特別産官学対話：インド太平洋に関する ASEAN アウトルック（AOIP）主流化
（2022 年 12 月 19 日、日本アセアンセンター提供）

●AOIP 主流化特別産官学対話

ベトナム出張中の 12 月 19 日に、[日本アセアンセンター](#)主催で、インド太平洋に関する ASEAN アウトルック（AOIP）の主流化に向けての特別産官学対話がハイブリッド方式で開催されました。

来年の日本 ASEAN 友好協力 50 周年とインドネシア議長国を視野に入れて、両国が重視する AOIP 主流化をテーマに、インドネシア外務省高官や前 ASEAN 事務次長をはじめ日 ASEAN 双方の産官学の参加を得て企画されたものです。

私からはオンラインの冒頭挨拶で、今回の産官学対話は、来年の日本 ASEAN 友好協力 50 周年、近時の AOIP 主流化の動き、産官学の参画の必要性という 3 点からまさに時宜を得たイベントであり、議論の成果が今後の具体的協力の進展につながるよう願っている旨述べました。インドネシア外務省のシダルト ASEAN 協力総局長（ASEAN・SOM）からも、議長国としての最新の優先事項について密度の濃い説明がありました。

今回の対話では、企業や大学の専門家パネルのみならず、Z 世代の若者パネルも急遽企画され、AOIP 主流化に向けて世代を超えた議論も行われて大変有意義なものとなりました。ご関心がありましたら[アーカイブ動画](#)をご覧ください。



日本 ASEAN 友好協力 50 周年[特設ウェブサイト](#)（2022 年 12 月 21 日公開）

●50 周年特設ウェブサイトの立ち上げと記念事業の募集開始

特別産官学対話の翌々日の 12 月 21 日、日本アセアンセンターにより、日本 ASEAN 友好協力 50 周年の[特設ウェブサイト](#)が立ち上げられました。

この特設ウェブサイトでは、2023 年に行われる様々な周年記念事業や、日本と ASEAN 諸国の人々をつなぐ架け橋となって活躍されている方々を紹介するとともに、日本と ASEAN の人たちが一緒に参加して盛り上げるキャンペーンなども実施する予定です。なんと、自動翻訳機能を活用して、ASEAN 各国の言語でも読むことができます！

これとあわせて、日本 ASEAN 友好協力 50 周年[記念事業の募集も開始](#)しました。幅広い関係者の皆様の参加・協力を得て、日本と ASEAN 各国で友好関係を一層盛り上げる観点から行うものです。記念事業の趣旨に合う事業は、事業認定の申請手続きを経て、50 周年のロゴマークやキャッチフレーズを使えるのみならず、特設ウェブサイト上の[記念事業一覧](#)にも掲載されます。

日本と ASEAN の協力・交流に関係している皆さんにおかれては、是非この機会に記念事業を企画・実施して、日本 ASEAN 友好協力の大きなプラットフォームに参画いただければ幸いです。今はオンライン・ハイブリッドの時代です。ジャカルタから皆さんの参画をお待ちしています。



日本 ASEAN 友好協力 50 周年に向けての和食紹介イベント
(2022 年 12 月 22 日)

●日本 ASEAN 友好協力 50 周年に向けての和食紹介イベント

ベトナム出張から戻った翌日の 12 月 22 日には、ASEAN 事務局で、日本 ASEAN 友好協力 50 周年に向けての和食紹介イベントが開催されました。

今回の目玉は、手打ちそばです。[宮城手打ちそば研究会](#)と[全麺協](#)と ASEAN 代表部が共催し、宮城県からそば名人 8 名が手弁当で来訪することで、そば打ちのデモンストレーションと本場のそばの提供が実現しました。それに森田公邸料理人が天ぷらを添え、天ぷらそばにしました。更に、高知県シンガポール事務所の協力を得て、高知県のゆずジュースや昆布茶のプロモーションを行いました。私からは冒頭の挨拶で、皆さんの協力に感謝をお伝えしました。

今回の和食紹介イベントは、大盛況の大成功でした！ASEAN 事務局や各国代表部からは事務次長や常駐代表・大使をはじめ多数が参加して、日本の本場のそばや飲み物を味わい、そば名人の技術を間近に見て、和食の奥深さを実感していました。また、国立パジャジャラン大学で農業を専攻した元 JKT48 の[メロディ・ヌランダニ・ラクサニ](#)日 ASEAN 食料農業友好親善大使も冒頭で挨拶し、会場から[インスタグラム](#)で和食の魅力を発信していました。



クリスマスツリーが飾られた ASEAN 事務局ロビーで（2022 年 12 月 22 日）

●日本 ASEAN 友好協力 50 周年に向けて

11 月 30 日のジャカルタ着任から約 1 か月、以上のように多くの方々とお会いして、密度の濃い日々を過ごさせていただきました。皆さんのお話を伺って強く感じたことは、本当に幅広い分野の方々が日本と ASEAN の協力と交流に長年にわたり携わり、大きな資産となっていることです。

私たちは、これを当たり前のことと思ってはいけないと思います。今の緊密な日 ASEAN 関係は、過去 50 年間にわたり日本と ASEAN の双方の先人たちが築いてきたものです。これからの 50 年間は、私たち一人ひとりが、来年の日本 ASEAN 友好協力 50 周年の機会を最大限に生かして築いていかなければなりません。今の世界は平和・安全保障、経済・エネルギー、環境・防災・保健など喫緊の大きな課題に直面しており、相互の交流・理解や信頼の強化も不可欠です。

私は 12 月 23 日で 58 歳の誕生日を迎え、ASEAN 日本政府代表部の同僚にバースデーケーキで祝ってもらい嬉しく思いました。日本と ASEAN は、来年 1 年間を通して、この誕生日のようにお祝いをするとともに、将来に思いを馳せる年です。是非、皆さんとともに、日本と ASEAN、そして地域と世界にとって素晴らしい 1 年間にしていきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

（以上）